



だから避難訓練は
月1回以上！



野田村の方(役場の小野寺さん)にも
興津小でお話していただきました





ポスト3/11＝巨大想定下の興津地区

- 想定＝15-20分程度、最大30メートル級、震度6強
- 避難施設は、ある意味、十分整備済
- 逃げようという意識は・・・???
- 四大よろしくないレスポンス
 - － あきらめ...もうダメだ、黙ってお迎えを
 - － 油断・慢心...そんなの来るわけない、昭和のときだって...
 - － 徒労感...「これまでの努力が水の泡」(最大12メートル想定)
 - － お任せ...「もっと高いタワーを」、「先生、よろしくお願ひします」

個別訓練 タイムトライアル



津波避難訓練 防災学習 個別訓練 タイムトライアル

個別訓練とは?
 巨大地震・津波による災害が想定されている地域では、津波避難場所や避難経路など施設面の整備が少い場合があります。しかし、そうした施設を逃かすために、「適切な場所に迅速に、確実に避難すること」が大切になります。そのためには、避難に関する問題を個人ごとにかんがって「個別訓練」に、対策を講じる必要があります。「個別訓練タイムトライアル」は、そのために開発した方法です。

個別訓練のねらい
 そのためには、避難に関する問題を個人ごとにかんがって「個別訓練」に、対策を講じる必要があります。「個別訓練タイムトライアル」は、そのために開発した方法です。

準備いただく道具
 本稿のものを活用しては実施できます。もしも機材が行方不明の場合、地域の防災センターやマップとスマートフォンがあれば実施可能です。このほか、個別訓練実施後に使用する時計もあれば、避難の様子をコミュニケーション・ウェアで撮影することも可能です。学校の防災学習と組み合わせる場合は、さらにビデオカメラが必要になります。

個別訓練 タイムトライアル

訓練のすすめ方
 避難場所では実際に避難しながら、自宅から避難場所までの経路と避難場所までの経路を確認する作業が中心になります。ビデオカメラを準備する場合は、あらかじめ避難場所を確認しておく必要があります。2つのカメラを持って、1台は避難場所までの経路を、もう1台は避難場所を確認します。さらに別のカメラが、その時の状況をもとに記録します。たとえば、「車を止められた」「避難のためには、避難の協力センターの利用が必要かも」といった具合です。

動画カメラ
 ビデオカメラは、避難場所までの経路を確認する作業が中心になります。ビデオカメラを準備する場合は、あらかじめ避難場所を確認しておく必要があります。2つのカメラを持って、1台は避難場所までの経路を、もう1台は避難場所を確認します。さらに別のカメラが、その時の状況をもとに記録します。たとえば、「車を止められた」「避難のためには、避難の協力センターの利用が必要かも」といった具合です。

準備される道具
 本稿のものを活用しては実施できます。もしも機材が行方不明の場合、地域の防災センターやマップとスマートフォンがあれば実施可能です。このほか、個別訓練実施後に使用する時計もあれば、避難の様子をコミュニケーション・ウェアで撮影することも可能です。学校の防災学習と組み合わせる場合は、さらにビデオカメラが必要になります。

お問い合わせ先
 減災社会プロジェクト
 DPPI, Kyoto University
 TEL: 075-753-5294
 FAX: 075-753-5294



個別訓練＝動画カルテ まとめ1

1. 想定を「うそ」にしてしまうための〈変化〉に向けた具体的な手がかりを獲得できる
(「津波による犠牲者×人」という想定情報を変化させるためのエンジンとなる)
2. 避難する人自身が「主役」となった減災活動
3. 第三者(研究者)と当事者(地域住民)の
インターフェース＝対話の場・ツール

個別訓練＝動画カルテ まとめ2

4. 自然科学(地震・津波＝敵を知る)と、人間科学(人＝己を知る)のインターフェース
 - 敵:揺れの強さ、継続時間、津波の高さ、早さ、方向
 - 己:どこに、どこを通過して、どのように、だれと一緒に、何分かかって?
5. 情報(想定)→対策・訓練→情報(想定)→対策・訓練→...のサイクルあつての情報であり訓練であるべき

個別訓練＝動画カルテ まとめ3

- 避難の「主役」は、地域の方々。「主役」が舞台の中心にいてほしい
- 避難に要する時間、経路や場所、要援護者への対応、逆に応援してもらえる方など、自分でチェック(避難成否の判断に不可欠のパラメータの一つ)
- 主役を脇役も応援する(津波予測もちろん重要なパラメータの一つ)
- こうして得られた大事な情報をもとに、みんなが(住民も、学校も、行政も、専門家も)協力して、地域独自の避難方法・施設の改善をはかる

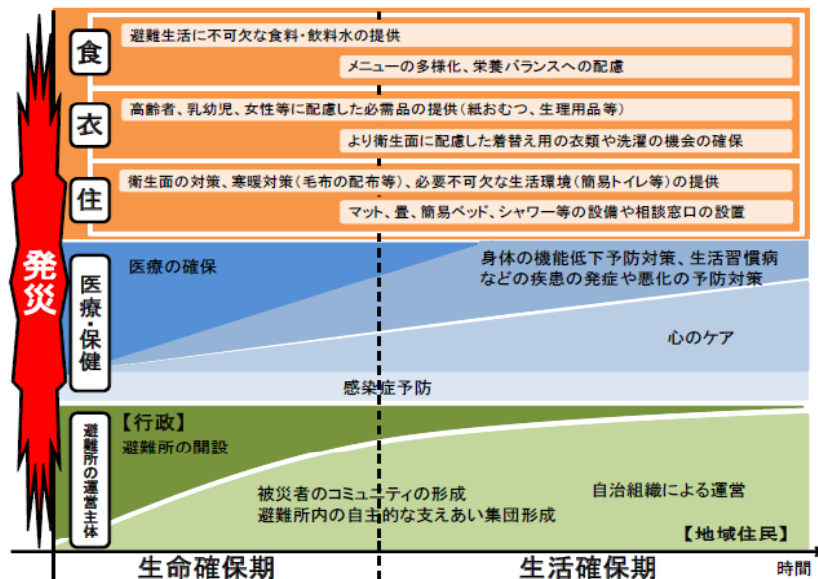
お話のまとめ

- みんなは大きな災害(「東日本大震災」)を経験しました。
- 神戸の子どもたちも大きな災害(「阪神・淡路大震災」)を経験しました
- その後、大人になった神戸の子どもたちのことを知ってもらいました
 - 自分たちの活動をビデオに
 - 防災・消防の仕事について女の子
- 高知の子どもたちは20XX年に起きると予想されている「南海トラフ地震」にそなえてがんばっています
 - 地図(防災マップ)のおかげで保育所が高台に
 - 自分たちの避難訓練だけでなく、お年寄りの訓練もお手伝いしていました
- みなさんも自分の経験を少しずつ生かしていきましょう

避難所

- 「避難所における良好な生活環境の確保に関する検討会」(内閣府)最終報告に記載された3つのポイント
 1. 被災者の生活の場として発災直後からのフェーズに応じた良好な環境を
 2. 地域支援の拠点としての機能
 3. 被災者の多様性に十分配慮

<避難所におけるフェーズごとに重要となる事項>



印象に残っているご意見(順不同)

- 「こんな非常時にわがままだって言われる」(食物アレルギー)
- 「今、災害があったら、私は避難所に行きません。行きません」(視覚障害をおもちの方)
- 「避難所に来ていない方々(こそ)が、問題なんです」
- 「避難されている方にとっては、そこはお家です、自宅の居間の話だと思って議論すべきだし、ふだんから想像してみるべき」
- 「自立、生活再建へ向けた支援は重要。しかし、『はい、今日から、生活確保期ですよ(自立へ向けた努力ですよ)』とは、いかない」
- 「震災関連死=公式統計でも1600人あまり、最初の1ヶ月で半数、3ヶ月で8割。避難所におられた頃だ」
- 「3つのシームレス」(①時間=日常と異常のギャップ、②部門=縦割り、③地域=阪神・淡路と同じことの反復)